谷戸は小さな宇宙そして桃源郷

2005年6月25日発行

http://nara.yato.jp/

していたのですが、よ

見たことがありました。 です。また、当会のバードウォッチン 目を輝かせ、 行きあいました。みんなびっくりして、 オオタカが空高く舞っているところに 源流域の谷戸に案内していたときに、 グでも、オオタカとカラスの空中戦を 最近、当会の会員が、小学生たちを 歓声をあげたということ

長の野川さんにお聞き は、何年も前から前会 オオタカが飛来してくるというの

ション建設や宅地開発 ました。近隣で、マン く見かけるようになり

幼鳥も確認しているので、奈良川源流 して避難してきたのかも知れません。 生息地を奪われ、最後のよりどころと が相次いでいるため、 域で営巣・繁殖している可能性もあり

生態系が豊かな証拠

Since 1996.3

するタカ目タカ科の猛禽類です。 くらいもあり、主にハト類やムクドリ、 成鳥は羽を広げると、一〇六センチ オオタカは、 食物連鎖の頂点に位置

> と滑降を繰り返して飛びます。 べています。直線的に飛び、はばたき ヒヨドリなどの鳥を空中で捕らえて食

学生たちの歓声が谷戸に響きました

それのある野生動植物の種の保存に関 の危険が増大している種」とされてい ています。絶滅危惧Ⅱ類とは、「絶滅 リストでは、絶滅危惧Ⅱ類に指定され て、 さらに、オオタカは、「絶滅のお オオタカは、環境省のレッドデー

する法律 され、保護の対象と 生動植物種にも指定 法)」で、国内希少野 なっています。 (種の保存

が豊かで、植物や昆虫なども豊かなこ 動物がたくさん生息するには、 豊富でなければ生きていけません。小 ノウサギなど小型動物や中小の鳥類が なるモグラ、ネズミ、 オオタカは、餌に 生態系

ならないと思います。 里山環境を守りつづけていかなければ に、これからも奈良川源流域の貴重な オオタカが安心して生息できるよう あることを証明しています。

川源流域が、それらの生物層が豊かで

オオタカがいるということは、奈良

とが必要です。

子供たちの未来のために

迎えます。この間、自然観察会や里山 源流域部分の小川の復元、休耕田のま の皆さんに参加していただきました。 まつりなどの活動を続け、多くの近隣 などを横浜市に要望してきました。 まになっている道路代替地の有効利用 山環境を保全、復元するために奈良川 当会が発足して来年三月で十周年を また、発足当初から、この貴重な里

ことを今年こそ期待しています。(K) -田市長の施策が一日も早く実現する 環境資源を未来に引き継ぐ、という



かって出られなくなっていたところを、野川前会長が助け て保護し、傷ついていないか調べてから放してやりました。

【平成十五年五月十八日】

植物 観察会

講師:杉本和永先生(玉川大学助教授)

でもあります。 飛び移ったりしていらっしゃる森の人 大学の箱根の演習林では、木から木へ 自然環境教育の指導もされています。 杉本先生は、林学がご専門ですが、

スもしていただきました。 里山の管理について実際的なアドバイ 植物の興味深いお話と、里山公園では、 当日は、谷戸の豊かな植物を教材に、

をまとめてみました。 以下に、私のノートから先生のお話

実はおなじみの「どんぐり」。 もよく植えられています。葉の表面は 光沢があり濃い緑。裏面は淡緑で、 ▼シラカシ、アラカシ 人家の生 垣に 果

りますか」と先生…花は四角く、萼は 真果といって子房が太って果実になる。 ▼カキノキ 「かきの花をみたことあ (四すう性)。だから果実も四角。



は五枚でバ ポは小さ 花の集 タンポ (舌

> ている。 なる冠毛がつい 状花)である。 にすでに綿毛に 種子になる部分 ▼ショウブ

まれている草だ しがある。親し 払うという慣わ 端午の節句には りが強いので、 しく黄色の棒の 菖蒲湯で邪気を 花はめずら

ような地味な花。(肉穂花序)

モ科。根茎は薬用とされる。 メ科。ショウブ、セキショウはサトイ ▼キショウブ、ニワゼキショウはアヤ

外国から壊れ物の荷物の詰め物として センチで花をつける。 ▼シロツメクサ (クローバー) ▼スイレンは、水の深さが五○~六○ 昔、

日本に入ってきたのが野生化定着した

(帰化植物)。

イ)を燭台の芯にしていた。 からゴザや畳表の材料とした。 「灯心草」ともいい、昔は茎の髄(ズ ▼イ (イグサ) 湿地に生える。 別名 古く

ら忘れられない花となりそう…。 察した。花茎の蛇紋といい、一度見た 分(仏炎苞)を解体し、その構造を観 ▼マムシグサ(サトイモ科) 花の部

日でした。ありがとうございました。 植物好きの私には楽しく勉強できた (藤原紀子)

【平成十五年八月二十三日】

昆虫観察会

政所名積先生(昆虫文献 六本脚)講師:市川直子先生(玉川大学助手)

◎市川先生のお話

お話しします。 は、最初に「昆虫の超能力」について 昆虫が大好きだと思いますから、今日 私の専門はミツバチです。皆さんは

雪量を予知しているんですね。 雪に埋もれないようにしています。降 カマキリは木に卵を産みますが、必ず 今日蔵王から帰ってきたのですが、





います。 機能学、 このような昆虫の様々な能力は、 昆虫応用学として研究されて 昆虫

寒い所、暑い所、どこにもいます。で ます。その中で、人類は生存させてい すから、地球は「昆虫の惑星」といえ はいけないと思います。 全生物のうち、昆虫は七三%、 た。人類の遥かな先輩です。今でも、 ただいているという感謝の念を忘れて 三%です。昆虫は陸、山、 昆虫は八億年前に地球に出現しまし 海辺、川、 人類は

そのかわり昆虫の体の中には骨がない ださい。固い殻が体を守っていますが、 さて、この生きているカブトムシは、 捕まえたのですが、 よく見てく



それから説明がありました。一部を紹 のです。さて皆さんに質問です。 介します。) 以下、 先生の質問に子供達が答え、

る。だから、ヒトには見えない物も見 にはたくさんの小さな目がある。 ▼チョウは紫外線を見ることができ ▼昆虫の目は複眼といって、一 つの目

▼カブトムシの口は歯ブラシのように

とか、体の仕組みをよく ります。 生活が良く解るようにな 観察しましょう。昆虫の はなく、昆虫の目とか口 ただ虫を捕まえるだけで 今から、表にでますが、

◎原っぱ広場で

虫のえさにしているので これを巣に持ち帰って幼 ついていますね。ハチは ▼ハチの後ろ足に花粉が

> わせて色を変えます。 ▼青いイナゴですね。育った環境に合

ボと言います。 ▼シオカラトンボの雌はムギワラトン

守るため な臭いをさせているのは外敵から身を ▼キリギリスが口から汁を出していや

◎感想

て健康そのものでした。 し、平気で虫をつかみ、生き生きとし た。フィールドでも虫取り網を振り回 に講義を聴き、また質問をしていまし 手にいっせいに先生に詰め寄り、熱心 せたとたん、目の色が変わり、図鑑片 かりで、先生が生きたカブトムシを見 ていましたが、さすが虫好きの子供ば た。ちびっ子達は、最初はモジモジし 久しぶりの晴天で大変暑い日でし

いけば、日本の、少なくとも奈良町の 将来は安泰だ、と思いました。 自然に触れ、豊かな感受性を育んで

(広報・鎮目)

里山まつり 【平成十五年十一月二十三日】

河 西 和

秋祭り ヤッホー!

った。 もお店をやることにな 会に入ったばかりの

こへ「かきもち」 したいな。とそ 『参加型の店』に

のカンパ。き

ンはちくわ焼 まり! メイ

き。

れた。 天気が報いてく らの準備は、 数か月前 か

だし自分で焼きましょ はただですよう。 「さあ、 」の声に、立ち止まる かきもち た

チョウゲンボウも)の応援を、

をこわごわ網 したとたん に乗せようと んだかきもち 人。箱から選 「ぱちっ」、「き

やつ」と飛び 上がった君、

本当に 驚い てたね。

る身をよじって焼けて そのかきもちがみるみ いったね。次々と親子 連れが参加、リピータ 大盛況。 しもいて、 おかげで

間から鳥たち(もしかしたら 透き通った風、木々、その ち良かった。流れる雲、 同情買い)でも、気持 た詩集は三冊(どれも がいちばん売りたかっ きはぽつぽつ、本人 メインのちくわ焼



春のバードウォッチング

講師:仲俣申喜男先生(日本野鳥の会)

◎仲俣先生のお話

を探しに動き出すからです。 いんです。鳥は夜明けとともに、エサ 野鳥の観察は朝の早い時間の方がい

るようです。 番が決まっていて、町内を巡回してい なことが分かります。鳥は巡る家の順 身近な鳥を観察しているといろいろ

間を見ても逃げなくなりました。鳥は が加えられなくなったのを知ると、人 里山ぐらいにしかいませんでした。昔 人間をよく見ています。 込んでいましたが、市街地での空気銃 は空気銃でよく撃たれので、山に引っ の使用が禁止になり、自分たちに危害 キジバトを多く見かけますが、昔は

の実や花を食べます。メジロも甘いも 度で枝にとまっています。それで、木 して鳥の声を聴くようにしましょう。 きます。朝、夕はテレビやラジオを消 見えにくくなりますが、声は聞こえて ビーチョビチョビと鳴き、四五度の角 ヒヨドリはピーピー、ヒショヒショ、 木の葉が茂ってきますと、鳥の姿は

のが好きです。ウグ ユースも飲みます。 イスは虫も食べ、ジ 月の末に初めて声 今年のウグイスは、



しようと、良い声のウグイスを飼って いる人に預けたそうです。 イスの声を良く

をやめ、「チャッ、チャッ」と笹鳴き、 いわゆる地鳴きをします。 います。九月になると、ホーホケキョ 実はウグイスはこの辺りには一年中

は群れで来ますから。猫や蛇が来た時 仲間を呼び合っているのです。メジロ ジロです。チィーチィーと鳴く時は、 すね。そばにもう一羽いるはずです。 は、ギギギィと鳴いて危険を知らせる ウグイスよりも先にさえずるのはメ コミュニケーションをしているんで

合図をしま

さんが秘密の野草園へ案内してくださ

幸せなことに会員の玉川大学の学生

がら、やがて玉川大学の構内に入る。

に行きましょ それでは、外 ります (笑)。 ても、メジロ す。だから、 たことが分か の声で猫が来 私は部屋にい

場…ヒヨド フィールドメ ◎はらっぱ広

> ボソガラスの声。 リ、ムクドリ、ツグミ、コゲラ、ハシ

◎ナチュラパス前…キジバト

◎土橋谷戸…ウグイス、ハクセキレイ (つがい)、ツグミなど。

◎野川さんの庭…シジュウカラ

ドリの声。 ◎本山池…カルガモ(つがい)、ヒヨ

> シラダカの群れ ◎本山…ヒワ、シジュウカラ、コジュ ケイ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カ

◎玉川学園の体育館…チョウゲンボウ までも飛翔。 (つがい)。尾羽を拡げて、青空をどこ

◎玉川学園のしだれ桜…メジロ

(広報・鎮目)

【平成十六年三月二十八日】

お花見会

小川桜子

のお花見会となった。 たものの花冷えもあり、 今年の桜は例年になく早いと言われ この日は満開

コジュケイやキジの声を時折り聞きな 向いの尾根にある里山型公園である。 とりの大島桜を眺めたのち山に入る。 せていただき、歴史ある池を見学、 会員により草刈りされているのが真 まずは前会長の野川さんの庭を通ら

護されていた。 タリシズカ等々、学生さんに手厚く保 ン、タチツボスミレ、シュンラン、フ ロハノアマナ、ナガバノスミレサイシ アシガタ、イカリソウ、キンラン、ヒ イ、エンレイソウ、カタクリ、ウマノ うっそうたる樹林の中にカンアオ

> きひと日でした。 に戻り、花の下で花に酔う花の宴、 散会のあと希望者は、 野川さんの ょ Щ

絞め上ぐる蔓を解きやり谷戸の百合 きじ鳩の声に応へて木の芽張る 自然保護の話さておき花 筵



三旬・桜子

谷戸の 尾 如

こんな言葉はございません。自己流 私達はフローリスト?

山のような学園の地、 地に花畑をと。 「谷戸の花畑」 前は田んぼに池、 そんなのどかな 後は

植え、四季折々楽しめるよう手入れを 花畑にはなるべく土地に合った植物を 元から生息している山野草も多く、

しております。 ス、ノコンギク、 ヤマホトトギ

コオニユリ、 ホタルブクロ

リナリア、他、 ジギタリス、フロックス、タバコソウ、 キョウ、 スイセン、 ケシ、 アマチャ、マンジュシャゲ、 ユウスゲ、オミナエシ、 たくさんの花が咲きま

をふくらませ、 可能かなど、花が咲いた時のイメージ ひと時です。 色どり、丈、一年草、多年草、 種をまきます。楽しい 連作

たらご一緒に、花の手入れをしてみま 散歩にお出かけがてら、よろしかっ

果と農学部の研究室で行う研究を併せ

生物自然研究部で行う調査の結

て前進して行きたいと考えています。

関係される多くの方々のご協力を得な を真剣に考えていきたいと思います。 教育の場・研究の場として利用してい

くためには何ができるのかということ

楽しいですよ。

S K

本山池に魅せられた私

生息できる環境はどのようなもので、

中 玉川大学農学部生物資源学科四年 Щ 高

種となってしまったゼニタナゴでさえ ウなどの魚類が生息し、今や絶滅危惧 ウなどの昆虫やギバチ、ホトケドジョ 奈良川の水源として古くから存在して 泳げばぶつかるほどであったといいま います。 本山池は鶴見川の支流の一つである かつては、タガメ、ゲンゴロ

ことに、生息していたゼニタナゴの一 限および西限であることからも、 ち、本山池がゼニタナゴの生息分布南 学および環境教育学に深い関心をも 生態・環境科学領域に所属し、また文 部は保護され、神奈川県水産試験場と が、一九九四年二月以降はゼニタナゴ その絶滅が危惧されていました。その そのような背景の中で、ゼニタナゴが 実践的な調査研究ができれば素晴らし 時代に身近なその種を環境指標とした として活動しています。私は保全生物 化会生物自然研究部においても前主務 持されています。私は玉川大学農学部 奈良川源流域を守る会により子孫は保 の生息が確認されていません。幸いな てわずかながら生息が確認されました 九八一年を最後に正確な記録がなく、 いことではないかと考えていました。 によると、一九九三年に本山池におい ゼニタナゴは、 神奈川県水産試験場が行った調査 神奈川県において一

> 現在の本山池の環境はどうなっている 伝えられたと思います。 池保全の必要性について多くの方々に ても展示することができました。本山 山池の保全に関する様々な要因につい 生物環境の現状として展示し、また本 ました。生物相調査の結果を本山池の 課外活動展においてその成果を発表し は玉川大学で開催されたコスモス祭の に進めています。二〇〇四年十一月に 様々な方々のご意見を伺うことで慎重 取り組み始めました。この調査研究は のかという調査を二〇〇四年二月から

領域では、旧生物学研究室の時代より 農学部生物資源学科生態・環境科学



考えた場合には、①外来種の駆除、在 まわれるような状態に復元することを 池の環境全体を昔のゼニタナゴが泳ぎ のです。科学的根拠に裏打ちされた具 す。いわゆる、木を見て森を見ずとい 卒業研究に取り組まれています。しか 数名の先輩方がゼニタナゴについての が必要になってくる可能性があるかも 修復作業という、大掛かりな取り組み 来種の保護②沿岸域修復作業③水域内 は推測の域を出ませんが、もし、本山 体的な調査結果が蓄積されてくるまで う状態では、不十分ではないかと思う る他の生物も再び生息・生育させると のではないかという感想をもちまし ナゴそのものだけに絞られすぎている なります。また、本山池を素晴らしい しれません。本山池とその周辺は現在、 いう広い視野をもつことが重要なので よりは、むしろその種とつながってい ある特定の種の生存を重視するという た。生態・環境という観点から見れば、 し、その論文を読んで、焦点がゼニタ 合的な観点からの十分な検討が必要と 態系の修復という試みに関しても、総 活用できるように整えられており、生 園児や低学年の小学生までもが安全に 玉川学園全体の教育、研究の場として、

1996 年度~ 2005 年度 『奈良川源流域を守る会』 公開イベントリスト

私たちは、この9年間、奈良川 源流域の里山環境を守るため、周 辺住民の方々にもそのすばらしさ を実際見て、触れて、感じていた だきたいと思い、日本野鳥の会を はじめとする自然保護団体の方々、 大学の専門家の先生方をお招きし、 様々なイベントを開催してきまし た。その活動の一端をご紹介いた します。

1996 年度

発会式 / お花見会 / バードウォッチング / 座間谷戸山公園見学会 / 春の植物観察会 / バードウォッチング / 開成町ホタルの里見学会 / 田植え / 昆虫観察会 / ホタルの会 / 虫の声を聴く会 / 稲刈り、脱穀・もみすり / もちつき大会

1997 年度

バードウォッチング/冬の鳥バードウォッチング/植物観察とお花見の会/田おこし/谷戸・里山の保全について考える会/あぜ付けと田植え/ホタルの夕べ/昆虫観察会/虫の声を聴く会/稲刈り、脱穀、もみすり/収穫祭

絶滅危惧種ゼニタナゴの生息地の復元で、WWF JAPANの1998年度自然保護事業助成決定(以後3年間助成金を受け、神奈川県水産総合研究所、玉川大学との共同事業としてゼニタナゴの復元を図る。現在も継続中)

1998 年度

バードウォッチング/植物観察とお花見の会/バードウォッチング/開成町 ホタル観察会/田植え/田の草取り/ホタルのタベ/昆虫観察会/ゼニタナゴの池掘り/稲刈り、脱穀/草笛の会/収穫祭

1999 年度

バードウォッチング / 植物観察とお花見の会 / 昆虫観察会 / ホタルのタベ / 虫の声を聴く会 / 収穫祭 / 竹の炭焼の準備

2000 年度

竹の炭焼/竹の炭焼(炭出し)/バードウォッチング/自然観察とお花見の会/草笛の会/ホタルのタベ/虫の声を聴く会/収穫祭

2001 年度

節分 芋煮会 / バードウォッチング / 昆虫観察会 / ホタルの夕べ中止 / 虫の声を聴く会 / 収穫祭2002年度

バードウォッチング / お花見の会 / バードウォッチング / 昆虫観察会 / 虫の声を聴く会 / 収穫祭2003年度

バードウォッチング/お花見の会/植物観察会/昆虫観察会/虫の声を聴く会 中止/里山まつり/TVKの学校教育放送番組で紹介される/バードウォッチング2004年度

草笛と野遊びの会/昆虫観察会/ 里山まつり/ TVK の学校教育放送 番組再放映/本山池の調査/パー ドウォッチング



講師:佐藤邦昭先生(玉川学園)

単笛と野遊

び

0

会

こうすればうまく 吹けるよ

オ、オオワシだ!! びっくりしたなー!



今年も参加してく れた玉川大学生物 自然研究部の作品 でした。

【平成十六年十一月十一

且

中

#

4)

昆虫観察会

|天のため屋外の観察はできませんでしたが、||師:佐々木正己先生(玉川大学教授)

で貴重な映像を交えてお話しいただきました。



6

★野草観察レポー

里山公園で見られる四季折々の野草たち

子

が変るごとに、どんな草花が咲いていくのか楽しみでした。 ました。そして「里山野草の四季」 下草刈り 私の自然観察は、 年の夏頃に、

会員の方々と汗水を流しながら、

ササなど)をしました。

刈った後、

里

山

まず野草の名前を調べることから始まり

を作ってみることでした。

例えば、 また、

IJ

源流 ヤマユ

0)

ある

大型 フジバ

0)

帰化

植

カ

夕 物

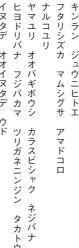
しょうか。ひと昔前の日本の野辺の姿を彷彿させるようです (セイタカアワダチソウなど)と混在しています 日当たりのよい丘には乾いた土を好む、 迦 季 ツリ ジュウニヒトエ !や湿地を好むオオバギボウシ、 アキノウナギッカミなどが、 ガネニンジンなどが……。 マムシグサ 二〇〇三年五月~調査 蔓草の ウド 覆う環境でも生き延びてきたの

章の

里らしく川辺

ヒヨドリバナ(キク科、花期8-10月。ヒヨ ドリが鳴く頃、花が咲くという。葉にはギザギ 裏に斑点がある) ザがあり、





オカトラノオ

六月

ヒヨドリバナ フジバカマ エノコログサ オオイヌタデ キンエノコログサ ツリガネニンジン タカトウダイ ハッカ オオケタデ

月

シロヨメナ

シラヤマギク アキノウナギツカミ

アキノウナギツカミ(タデ科、8-10月。 や葉にトゲがあり、他の植物にからみつく。 ンクの小花と緑の葉がとてもきれい)



コシオガマ(ゴマノハグサ科、花期8-10月。 草地に生える半寄生植物。ピンクの花が美しい)



ウド(ウコギ科、実付き頃10月。黒実になる のは枝先の花である。春の山菜として知られて いる)



タカサブロウ(キク科、花期7-9月。川べり や湿地 水田などに育つ。直径1センチほどの



オオケタデ(タデ科、花期8月。2メートルにもなる大形のタデである 赤味の強い紅色の花をつける)



芳香がある大輪の花で山地の傾斜地などに生育 する)



オカトラノオ(サクラソウ科、花期6-7月。 丘に生えて花穂がトラの尾に似ていることから この名がある)



オオバギボウシ(ユリ科、花期 7 月。葉は根生し卵形で、長さ 3 0 ~ 9 0 センチ。 7 月に淡紫の花が咲く)



ナルコユリ(ユリ科、花期5-6月。白色の筒状の花が並んで垂れ下がる。山地の林下などに 生育する)



マギク (キク科、 花期 一10月。葉は心形でザラ ザラしている。茎は赤味を帯 び草丈は1~1.5メートル、 野性味あふれる)



ンジン(キキョウ ー10月。釣鐘形 ツリガネ 科、花期8 の花は白、青紫色。花も葉も 輪生する)

梢では鵯鳥が見えがくれ、大空には長

【平成十七年二月十四~十六日】

春のバードウォッチング

講師:仲俣申喜男先生 (日本野鳥の会)

谷户 0) 採 鸟 会 青 麻 恵 子

笹藪では頬白が鳴いていた。 テレビで紹介されました 2004年1月17日・2月14日 テレビ神奈川(TVK テレビ) 「わくわくチャレンジ」『自然た いけんにでかけよう』で、『奈 良川源流域』の谷戸・里山の風 景と『奈良川源流域を守る会』 の活動が、学校教育放送番組で 紹介、放映されました。 この番 組は、主に小学生の「総合的な 学習の時間」のために神奈川県 教育委員会が制作したもので 土日の休日に生徒たちの自 主的な活動を促すため、「横浜 自然観察の森」と奈良川源流域 の自然体験を紹介しています。

長元坊、翡翠、 翡翠が過り、 傷、その幼鳥、 おかげできょうは椋鳥、つぐみ、白鶺 た半日を感謝してお別れした。 思い返して称え合い探鳥日和に恵まれ 元坊が番となり旋回している本山池を 倒木に止まった。先生の 頭高、 鷹に会えたことを皆で 小げら、 鵯鳥、

後ずさりしつつ首振りけらつつき 長谷川草州

銀白に白鶺鴒の巣立鳥

青麻恵子

県水産試験場、 本 T 池 0 調 查

位を下げて調査を行ないました。 を得て、本山池の水をポンプで抜き、 玉川大学の生物自然研究部が、 ゼニタナゴ研究会の協力 神奈川

生の環境教育の場ともなっています。

なく、その活動に基づいたいくつかの提

これまで実際に谷戸で活動するだけで

かは、一部の人にしか知られていません 川源流域の里山環境がいかに貴重なもの

でした。今では広く地域に浸透し、小学

ゴなどは駆除しました。 採集したブルーギル、タイリクバラタナ 質調査、貝の生息調査、 調査項目は、ヘドロの堆積量調査、 魚類の調査で、 水

抜本的な対策が必要だと感じました。 すます悪化しており、 予想はしていましたが、池の環境はま 完全に水を抜 いいて

> すること、里山公園の管理を市民団体が の遊び場、環境教育の場として有効利用 が所有する谷戸内の休耕田を子どもたち 系回復プロジェクトを実施すること、市 流付近の柵渠を元の小川に復元する生態案を横浜市にしてきました。奈良川の源

主体となって行うこと、などです



里山公園の作業を終えて一休み。 汗をかいたあとの冷えた飲み物は、生 き返るよう。谷戸も美しい。

り横廻りしてギィーと鳴き飛び去っ

小ゲラの番は幹をたたきながら上り下 地鳴きしてる頭高はひそやかである。 込み感激し合う。

里山の檜林に群れて

のレンズを通して代わる代わるのぞき 幼鳥が杭の上に止まっているのを先生 山公園に進んでいく。銀白の白鶺鴒の の嘴と脚で足早に去る、

源流沿いに里

に近寄る白鶺鴒、

椋鳥が対のオレンジ

を追った。原っぱの水溜まりに小走り

い学生さん、また夫婦連れ等と鳥の姿 に肩から双眼鏡をさげた小中学生や若 きの双眼鏡をかつぎ出した先生ととも

のもと参加させていただいた。脚立つ の会」の会員の仲俣申喜男先生ご指導 のご案内を『奈良川源流域を守る会』

十七年三月十二日

土

探鳥会

山田様からいただいた。「日本野鳥



秋の奈良川源流域の美しい風景

約8分間で紹介されています。

時々、再放映されますので、

覧ください。

会の活動が、番組の後半、

谷戸のハーブガーデン・ナチ パスで、かわいいウサギ んたちが待っています。 れから、はらっぱ広場では ヤギさんが草を食べています。

でも随時入会の受付けをしています。



入会のご案内 (入会随時

会費/年間二千円(家族は無料)

るほか、随時行事のご案内をいたします。 お送りします。また、定例会のお知らせをす ▼連絡先/『奈良川源流域を守る会』事務局 ▼会員の方には、会報『カワセミだより』を

電話(FAX兼用)〇四五―九六二―四五七

[三田] (e-mail:nara@yato.jp)

チュラパス』(〇四五―九六二―一六八三) *源流域の谷戸内の緑山ハーブガーデン『ナ は、会報のバックナンバーがご覧になれます。 (http://nara.yato.jp/) ▼インターネット上の当会のホームページで

園の手入れをしませんか。草花の世話は、毎 週土曜日、公園の手入れは、毎月第一・第三 ▼ご一緒に、谷戸で草花を育てたり、 土曜日です。 事務局までご連絡ください。 里山 公

●編集後記

三月で十年になります。

奈良

早いもので、当会が発足してから来年

きたいと考えています。

たちの提案は現実のものとなっていませ

今年こそ実現できるよう活動してい

田市政も四年目を迎えていますが、 市民との協働の理念を打ち出している

私